

海と共に

広報

戸倉力キ部会が農水大臣賞

全国青年・女性漁業者交流大会

2月28日と3月1日の両日、東京のホテルで第24回全国青年・女性漁業者交流大会が行われた。昨秋の宮城県大会で選ばれた、志津川支所戸倉出張所力キ部会と合同会社が活躍の浦戸の母ちゃん会が活動実績を発表。戸倉力キ部会は資源管理・資源増殖部門で最高賞の農水大臣賞を受賞した。

漁場再編で身入り改善 持続可能な浜見据える

戸倉出張所力キ部会は、会長の後藤清広さんが「持続可能な高品質なマガキの養殖生産」と題して発表した。



震災前の戸倉地区はさまざまな養殖種が過密状態で、とくにマガキは身入りが悪く、3年かかってようやく出荷サイズの10%に達していた。養殖施設の台数削減の声もあつたが、水揚げの減少の不安から反対意見も多く、なかなか進まなかった。

震災で全ての養殖施設を失い、ゼロから再開した。震災前の戸倉地区はさまざまな養殖種が過密状態で、とくにマガキは身入りが悪く、3年かかってようやく出荷サイズの10%に達していた。養殖施設の台数削減の声もあつたが、水揚げの減少の不安から反対意見も多く、なかなか進まなかった。

浦戸母ちゃん会 食で島の魚PR

合同会社が活躍の浦戸の母ちゃん会は、「島の母ちゃん会」と題して内海由美子さんが発表。浦戸支所の「番屋」を利用して加工品づくりをしたこと、島内に飲食店がないことからお弁当やオードブルを作っている。イベントにも積極的に参加して浦戸諸島の魚介類をPRするなど、エネルギーギッシブな活動を報告した。



畠山英市委員長

漁イサダ1万トンに迫る 春 4年ぶり、3港に笑顔戻る

3月1日解禁となったイサダ(ツノナシオキアミ)は4年ぶりに1万トンに迫り、水揚げ3港は笑顔が多く春漁の活気に満ちている。

「漁獲枠の1万5千トンは無理でもそれに近づく」とい。去年は沖に行くと風が吹いて戻ったりしたので、皆ほっとしている。

当組合小型漁船漁業部会イサダ委員会の畠山英市委員長(清漁丸II歌津支所所属II船主)はこう喜ぶ。1日の上限(10ト)以上船8・1ト、同未満船7・5ト)を漁獲する「満船」の持続とナギに期待。

東日本大震災後は漁獲が減少したイサダの水が来なくなつたため、親潮が強ければある程度期待できるという。資源は10年前に比べればかなり薄くなった。「自然の力だからどうしようもない」と話し、海に向かい来季の豊漁を誓った。

本年度経済事業について 平塚正信担当理事にきく



力強い口調で話す
平塚正信
理事

当組合の本年度経済事業 考え方、課題などを担当 業運営をめぐり、方針や 理事の平塚正信さんにき

ます。平塚正信理事 浅海の乾のり、ワカメ、カキ、ホタテ、ギンザケの5品目とホヤについては、販促も含め今まで以上に販売力強化に取り組む。事業企画班ではJ.P(日本郵便)と東急のギフト関係の取り扱いをもつ少

し伸ばす。また、昨年の漁業法改正もあり企業が入り込めないような体制を作るため、持続的に養殖できる仕組みをより強固にしていかなければいけない。

「保険」にもなる。カキとホヤは種苗産地が県内に複数あり比

比較的安定。カキは30年度は順調な水揚げが続ぎ販売もうまくいったが、ホヤは引き続き韓国の禁輸が販売のネックです。

平塚理事 ホヤの韓国禁輸はWTO(世界貿易機関)で敗訴したので、それを踏まえ今後東電に迅速な対応を求めている。

だ。カキは検査体制のあり方を検討していく必要がある。木曜に検体を出し、月曜に結果が判明する現状では、木曜からの4日間がグレーゾーンになる。生食がメインなのに大丈夫かといわれることもあり、リアルタイムも含めより早く結果が出るような体制に積極的に進みたいというのが漁協のスタンスだ。

今年も好調なギンザケは将来的な生産目標が2万ト、そのうち活じめの「みやぎサーモン」は3分の1の7千トとなる。

生し、ギンザケは中部で稚魚の死滅が増加。平塚理事 良い種、丈夫な種苗を供給できる体制作りを力を入れないといけない。移入先が1カ所だけではよくなく、複数の種苗産地や種を手配して、種苗確保で組合の役割が求められるのでは。大震災後、海に変化があったのか、ホタテ半成員の死滅ばかりでなく、昨年は、ワカメはブツ(穴開き)に加え種不足が発

また、昨年の漁業法改正もあり企業が入り込めないような体制を作るため、持続的に養殖できる仕組みをより強固にしていかなければいけない。

平塚理事 ホヤの韓国禁輸はWTO(世界貿易機関)で敗訴したので、それを踏まえ今後東電に迅速な対応を求めている。

だ。カキは検査体制のあり方を検討していく必要がある。木曜に検体を出し、月曜に結果が判明する現状では、木曜からの4日間がグレーゾーンになる。生食がメインなのに大丈夫かといわれることもあり、リアルタイムも含めより早く結果が出るような体制に積極的に進みたいというのが漁協のスタンスだ。

今年も好調なギンザケは将来的な生産目標が2万ト、そのうち活じめの「みやぎサーモン」は3分の1の7千トとなる。

購買事業では、平塚理事 石油類の供給高が低迷しており、資材・機器類に力を入れていく。「組合のものは高いよ」と組合員に言われるが、それは手数料が入るから。仕入れを圧縮して安く利用してもらい、組合員も漁協も良くなる」といいと常々思う。

組合からのお知らせ

信用共済部

定期貯金に特別金利

年金もお得なキャンペーン

JFみやぎ 漁協のズバリ! 定期貯金
特別金利 0.150%
 ※金利は相場の平均です。金利は0.150%、優遇特別金利0.315%、地方創生0.150%が適用されます。
 取扱期間 2019年5月7日(火)~2019年6月28日(金)

期間中に、100万円以上の純増・新規契約の方の中から抽選で150名様に「JFみやぎグルメギフトカタログ」をプレゼント!
 ※プレゼントは抽選による抽選の結果、決定させていただきます。

商品概要

商品名	JFみやぎ 漁協の定期貯金	適用金利	0.150%
取扱期間	2019年5月7日(火)から2019年6月28日(金)	入金額	10万円以上
対象	個人の方	入期間	1年(自動継続)
特長	0.150%の特典金利が適用されます。2年目からは通常金利が適用されます。		
優待	優待金利が適用されます。抽選による抽選の結果、決定させていただきます。		
その他	※本貯金の場合は特別金利は適用されず、所定の標準的利率が適用されます。 ※金利相場変動により予告なく本定期貯金の利率も変更させていただきます。 ※優待金利の適用には、優待金利が適用された場合が適用終了となります。 ※優待金利が適用された場合は優待金利が適用されず、所定の標準的利率が適用されます。		

JF マリンバンク 宮城県漁業協同組合
 仙台総合センター(仙台市青葉区) 0225-26-4720
 石巻総合センター(石巻市) 0225-24-1145
 三浦総合センター(三浦市) 0222-361-9210



気仙沼地区支所・藤田純一さん



気仙沼のワカメ漁師、藤田純一さん(41)は父康悦さん(71)と海に出る。季節によりサケ網、ウニやカキの買い付けや加工販売、煮だこなども扱う。

「父は開口でひと朝でこれだけ稼いだとか、ワカメが高値で1週間くらいだけになったぞ、めか

海の恵み、海の魅力をもっと発信

震災後は岩手県のワカメ漁師との交流も盛んになった。1月には、食材付きの新聞『東北食べる通信』がワカメを取り上げた際、西島のワカメ漁師たちが協力して取り組んだ。「同じワカメ養殖

もスキルも違った3人がタッグを組んだのだ。塾長である大手家電会社会長の「同じ水産業界でおいしいものを届けたい」という思いは同じ、経営課題も同じなんだから組んだらどうか」との声かけがきっかけ。

「漁師のくせによくしゃべる」と言われること

宮城のうまいもん
 2月21日、南三陸町の南三陸プラザで北部地区漁協女性部連絡協議会(会長・三浦弘子歌津支所女性部長)の巡回懇談会が行われた。

巡回懇談会で情報交換

北部地区女性連

料理教室で教え教えられ



2月21日、南三陸町の南三陸プラザで北部地区漁協女性部連絡協議会(会長・三浦弘子歌津支所女性部長)の巡回懇談会が行われた。



巡回懇談会で情報交換をする北部各支所・出張所女性部役員たち



「素材のいいものを使う」という。本年度は供用開始となった気仙沼市場の拡大設備に大きなキッチンスタジオができた。

会。年に1度、持ち回りで懇談会を開催し、各支所・出張所女性部の役員たちが集って情報交換をしている。長く続く事業のひとつだ。今回は志津川支所女性部の担当で、同部の活動などについての報告があった後、全5支所2出張所女性部の活動報告も行った。

女性部活動をするうえで、自分たちの女性部でやっていない活動を、自分たちもできるのであれば持ち帰っていただきたい」と担当の気仙沼金融センターの三浦美穂さん。「皆さんの活動を聞いていて参考になりました。どういったふうな運営しているのかな」と同部副会長で気仙沼地区支所松岩女性部長でもある山田のり子さんも話

「若い漁業者さんたちも入ってきているので、若い方たちにも女性部員として活動していただきたい」と山田副会長。「子育てに忙しい年代で、少しでも休めるように、少しでも休めるように、少しでも休めるように」と三浦さんも期待する。

きめ細かく組合員に寄り添える店舗に



塩釜総合支所金融センター 矢本～仙南（山元）の南部地区11支所の金融部門を統括。店舗は同センターと七ヶ浜支所のほか、曜日限定で矢本、仙南、浦戸、宮戸西部の計5支所で展開する。ATMは5台。職員は11人。今年3月末時点で口座数7584、貯金残高147億円、貸出金残高20億8000万円。

ノリ養殖・漁船主体

塩釜総合支所金融センターでは矢本から仙南まで、県南部の11支所の貯金と貸付、為替、共済業務を行っている。全日営業している同センターと七ヶ浜支所のほかに、月曜は矢本、火曜は仙南、水曜は浦戸、金曜は宮戸西部と各支所の曜日限定



泉浩明センター長

店舗に、職員各3人が出向いて業務を行い、組合員の相談にも対応している。同センターの管轄内の支所は、ノリ養殖や漁船漁業を主体としているところが多い。ノリはほかの養殖種と比べ、乾燥機などの機械や周辺機器に莫大な資金が必要となる。震災後施設保有組合で整備したが、周辺機器に更新してはそろそろ更新時期となつてくるので、代替のため投資したいところ。

重油が漏れ出したという事故は記憶に新しい。商品の安全性を確保するために、七ヶ浜支所では最盛期を迎えていたノリと養殖施設の全面撤去という事態に陥り、大打撃を受けた。これに関しては県の資金により、23人に1人500万円までの運転資金が2月末までに融資された。

泉浩明さん。石巻総合支所から移ってきた。前職で1年がたった。前職のときと同様、一組合員へのサービス向上を常に心がけ、目指している。設備投資などについても、漁業近代化資金などを活用している。融資関係でも協力させていきたいと思います」と話

減っているのが現状だといふ。しかし天候などに水揚げを左右されたり、価格に大きく影響されたり、大きな設備投資も必要とする漁業者の事情をどこよりも知っているのは漁協金融センターに他ならない。

「漁業者に密着した、何でも相談してもらえような店舗にしていきたい」と、泉浩明さんは職員ともよく話している。本年度も各店舗で親身に組合員の相談に乗り、また全県規模で貯金のキャンペーンを年3回集中的に行う予定。



「にぎわい東北」でのかき汁のふるまい。1日4回、各150食を配布した

塩釜総合金融センター

支所を訪ねて

石巻総合金融センター



鈴木司センター長



井上英明次長代理

石巻総合支所金融センター 北上町十三浜～石巻湾の中部地区12支所の金融部門を統括。店舗は同センターと曜日限定で雄勝町雄勝湾、女川町、網地島、田代島、表浜の5支所・出張所で展開する。ATMは本所含め9台。職員は17人。今年2月末時点で口座数1万1431、貯金残高395億2500万円、貸出金残高80億900万円。



一層の増加求め投資

貯金残高、貸出金残高とも当組合3金融センターでトップ。「中部は水揚げ規模が大きい。元気で、漁業に対して意欲あふれる人が多いので水揚げも伸びている」と鈴木司センター長は目を細める。水揚げが貯金と貸出金に影響すると考える。

とりわけ貸出金残高は断トツで組合全体の6割を占める。井上英明次長代理は「さらに水揚げを増やすために設備投資をして漁業経営を向上させたいという意欲が強い漁業者の方が多いので、今後つしやいますので、今後皆さんの経営に少しでもお役に立てるようにしていきたいです」と笑顔

で話し、貸出金にも意欲の表れをみる。そうした意欲に応え、支えることに力を入れ、組合員と向き合い寄り添う。日々の目配りや対処は並大抵ではない。漁業種類、養殖種とも豊富で、県内の営漁の全てがそろっているといえるほど華やかなこともある。鈴木司センター長は「さまざまな魚種があるが、水揚げを上げてもらうのが一番」と明言。それぞれの漁業、養殖で水揚げをどう上げてもらうか。それに伴う設備投資や生産基盤の安定に尽力し、

経営をよくするために役立ちたい。支所協力で情報収集 そのためにはまず情報が必要だ。「各支所の職員の協力を得ながら、設備投資の情報で動く。計画があるかを支所や漁業者に聞き、うちで融資する。借入れの説明会を開くこともある」と井上次長代理。融資は新規だけで200件超えが3年続いているといい、懸命な努力が実を結ぶ。

貯金では信用事業の足腰となる組合員個人の貯金で、安定性の高い定期性の割合が30%を割った。普通貯金となる当座性も極めて大事だが、震災後に膨らんだ市町など

地方公共団体の貯金が復興とともに減る中、頼れる個人貯金で金利の高い定期性の割合低下は大きな懸念要因。鈴木司センター長は「昨年一昨年も年末に定期を組んでいる人にダイレクトメールを送っているが、金融センターで声掛けし、定期貯金の推進に取り組んでいる」といい、割合の低下から反転攻勢をかけていく。融資では書類の多さと実行までの時間が不評。他金融機関と同様だ。「私たちがから見ても書類は多いが、借入れれば組合員の貯金を原資としており慎重な審査が必要。ご協力をいただきたい」と井上次長代理。

水揚げ意欲で貯金も融資もトップ

定期的割合向上に力 もちろん課題もある。好調な貯金にも融資にも。貯金では信用事業の足腰となる組合員個人の貯金で、安定性の高い定期性の割合が30%を割った。普通貯金となる当座性も極めて大事だが、震災後に膨らんだ市町など

旬の水産物を イベントでPR 食育も継続

参加予定のイベント(4～6月)

イベント名	開催月	開催場所
ほや祭り	5月3日	仙台勾当台公園 市民広場
みやぎ生協 ギンザイベント	5月	みやぎ生協5店舗
みやぎ生協 ほやイベント	6月	みやぎ生協5店舗

当組合では前年度も県内外で、旬の魚介のPRや食育活動を行ってきました。2月15、16日には東京で行われた「GI 産品フェスティバル」で、昨年GI(地理的表示)の認定を受けたみやぎサーモンをふるまいました。3月は、9、10日に代々木公園での恒例行事「ふるさとの食につぼんの食全国フェスティバル」に参加。全国の名産品が集まる中、わかめスープのふるまいとわかめの販売。16日にはイオン板橋店「にぎわい東北」のイベントにキッチンカーで参加し、かき汁をふるまうとともに販売するなど、東京での活動も続けました。どれも長い列ができ、県内水産物を知ってもらうよい機会となりました。本年度も、旬の魚種ごとにふるまいや試食販売を進め、食育にも力を入れていきます。